

【中央官庁だより】 ◇あの副大臣の「意外な評判」＝国土交通省(1)

辻元清美国土交通副大臣の省内での評判がすこぶる良い。辻元氏と言えば、かつて国会で小泉純一郎首相（当時）に対し「総理、総理、総理」と鋭く切り込んだ「攻撃的なスタイルの人物という印象が強い」（幹部）。今回の政務三役入りに当たっても、「社民党内の意思疎通の問題」（党関係者）で、就任するかどうか二転三転するドタバタ劇が起きるなど、何かと話題の多い政治家だ。このため、当初は多くの職員が「大変な人が来てしまった」「どう付き合ったらいいのか」などと困惑。「大臣以下6人の政務三役の中で最も警戒している」とささやく職員もいたほどだ。ところが、ふたを開けてみれば「びっくりするぐらい印象が逆転した」（幹部）という。攻撃的というよりも柔らかな性格で低姿勢。「他省庁とは大阪弁で粘り強い『タフな交渉』をしてくれる」（中堅）。財務省でも「頭の回転が速い」「フットワークが軽い」（若手）と評価が高い。日本航空の経営再建問題では、前原誠司国交相に代わり関係者協議の仕切り役は辻元副大臣。もはや職員にとって「頼れる姉さん」といった雰囲気だが、ある中堅は「民主党議員のように小沢（一郎）幹事長に縛られていない分、よっぽど身軽なんじゃないか」とぼつり…。（了）

（2010年1月18日／官庁速報）